パブリックオープンスペースの設計コンセプトにみる
人間-環境関係に関する研究

PERSON-ENVIRONMENT RELATIONSHIPS IN DESIGN CONCEPT OF PUBLIC-OPEN-SPACE

小林 健治*, 鈴木 毅**, 舟橋 國男***, 木多 道宏**, 李 斌****

*Kenji KOBAYASHI, Takeshi SUZUKI, Kunio FUNAHASHI,
Michihiro KITA and Bin LI*

This study aims to clarify what designers think of Person-Environment Relationships, for example, mode of being in place, user situation, and design vocabulary on design concept of Public-Open-Space.

The method is interpretation of contents and classification of thought about Person-Environment Relationships, in 112 articles published from 1971 to 2002 in "SHIN-KENCHIKU", which is one of the most popular architectural journals in Japan.

The result shows that there are: (1) twelve categories for person-environment relationships in design concepts of public open spaces, (2) historical tendency to thought of person-environment relationships, (3) relation between person-environment relationships on design concepts and design vocabularies.

Keywords : *Person-Environment Relationship, Public-Open-Space, Design Concept, Urban Design, Place*

人間-環境関係, パブリックオープンスペース, 設計コンセプト, アーバンデザイン, 場所

1. 研究の目的と意義

人がある場所にどのように居られるか, その時周囲とどのような関係性を得られるかは, 空間が提供する最も基本的な価値のひとつである。近年, アメニティ意識の高まりとともに景観やオープンスペースなど都市環境は着実に整備されつつあり, 連日多くの人びとで賑わっている場所もしばしば見受けられる。

このような状況の中で, 都市環境, とりわけ都市のもつ魅力のひとつであるといわれるパブリックオープンスペースは今後も都市環境の重要な要素となっていくことが予想されるが, 現在の都市環境開発は物理的な環境の整備が主であり, ささまざまな人びとが特に何も目的がなくただ居られる場所や, 人が居る様子自体が都市の魅力を高めているような場所⁽¹⁾は必ずしも増えておらず, 逆に, 綺麗に整備されているがどこか居心地が悪く, 居場所となりにくい場所も少なくないように思われる。そこにはさまざまな問題が考えられるが, 都市の中のパブリックオープンスペースがどうあるべきかというコンセプトの段階に第一の問題があるのではない。

これまでもパブリックオープンスペースに関する研究は数多く行われている。例えば芦原⁽²⁾は, 西欧の都市空間を事例として, その外部空間の視覚的特徴から, 空間も含めた広い意味での場所の形態と知覚の関係を明らかにしている。積田⁽³⁾はSD法・因子分析法を適用して,

都市のオープンスペースに対する人間の心理評価構造を抽出, オープンスペースの空間構成要素を分解し, 心理量と物理量の相関関係を明らかにしている。近江ら⁽⁴⁾は公開空地等のオープンスペース以外の都市の建物や敷地内にある私的なオープンスペースについて, ショッピングモール等を事例として, その形態と形成要因について分析し, さらにその内外の人びとの行為からみた領域形成について論じている。このように, パブリックスペースに関する研究は数多く存在しているが, その多くが現象的にその場所の状態, 状況を明らかにするものであり, 設計者がどのような意図でその場所を計画したかに関する議論はあまりなされていない。

以上のようなことから, 本研究では, 建築家の言語的活動に着目した奥山らによる一連の研究⁽⁵⁾を参考にしつつ, これまであまり扱われてこなかった, 設計者がパブリックオープンスペースを計画, デザインする際のコンセプトに着目し, 設計者がその場所に対してどのような利用者の行為を意図してきたかをその言説から抽出し, それらの時代的変遷, 建物用途との関係, そのためにどのようなデザイン手法を用いてきたかについて分析し, パブリックオープンスペースにおける人間-環境系に対する新たな知見を得るための第一段階として, 設計者のパブリックオープンスペースに対する思考を明らかにすることを目的とする。

* 大阪大学大学院工学研究科建築工学専攻
博士後期課程・工修

** 大阪大学大学院工学研究科建築工学専攻 助教授・工博

*** 大阪大学大学院工学研究科建築工学専攻 教授・工博

**** 大阪大学大学院工学研究科建築工学専攻 助手・工博

Ph. D. Student, Dept. of Architectural Engineering, Graduate School of Engineering, Osaka University, M. Eng.

Assoc. Prof., Dept. of Architectural Engineering, Graduate School of Engineering, Osaka University, Dr. Eng.

Prof., Dept. of Architectural Engineering, Graduate School of Engineering, Osaka University, Dr. Eng.

Assist. Prof., Dept. of Architectural Engineering, Graduate School of Engineering, Osaka University, Dr. Eng.

2. 研究方法, 研究対象

本研究では、設計者の意図が明確な形で現れていると思われる、事例が掲載されたときの記事、文章（以下、設計コンセプト）に着目し、研究対象として、建築及び設計者の意図を掲載する雑誌の中で主要な建築誌のひとつと思われる「新建築」誌⁽⁶⁾とした。

研究対象事例は、1971年⁽⁷⁾から2002年の約30年間に掲載された事例のうち、1. 外部空間であり、特定の人だけでなく不特定多数の人びとの利用を前提としたパブリックスペース（以下、パブリックオープンスペース）を有すること、2. 事例掲載記事中の設計者による文章の中に、その場所に居る人の様子やその場所の利用（以下、人間-環境関係）に対する設計者の意図が記載されていること、以上2つの条件に該当する⁽⁸⁾事例112事例とし、設計者が計画する際に意図していたと思われる設計コンセプト内の人間-環境関係を抽出した。具体的には、「憩いの場」、「賑わいを演出」等、その場所に居る人や、周辺環境に対して何らかの影響を与えるべく意図されているキーワードに注目し、その場でどのような利用者の行為、活動を想定しているか、あるいは場の質を目標としているかを抽出し、さらにそれらをカテゴリーに分類した⁽⁹⁾（図1、表1）。

対象事例数は、1970年代が11事例であるのに対して、1980年代が35事例、1990年代が39事例と増加の傾向にある。また、2000年以降については3年間にも関わらず27事例と多くなっている（図2）。

図1 人間-環境関係抽出-分類の例

図2 年別対象事例グラフ

表1 人間-環境関係カテゴリー分類表とその代表的事例

[安らぎ]	安らぎ/5 休憩/3 居心地の良い/2 休む/1 休息/1 レストスペース/1 一服の場/1 佇む/1 くつろぐ/1 リフレッシュ/1	
	10	17 目的的人びとだけでなく通すがりの人びとにも公園のベンチのように安らぎを与え、また刺激を与えるものにしたと考えた。(no. 18)
[憩い]	憩い/12 憩う/4 憩/1 いこい/1	
	4	18 街の中で小さな溜まり場となり、街のポケットとして人びとに憩いを与え仲間が集うスペースとなることを考えた。(no. 21)
[通り抜け]	通り抜け/8 通抜け/1 通り抜け道/1 通り抜けの道/1 通り抜け空間/2 通り抜ける/2 通り抜けている/1 通り抜けられる/2 近道/3 抜け/1 抜けられる/1 歩き抜ける/1 横切っている/1 貫通道路/1	
	14	26 敷地の状況から斜面と段差を利用し、内部に道にかわる通り抜けの広場を採って各施設の機能を連結と分散を試みたのである。(no. 16)
[散策・回遊]	散策路/5 立体散策路/1 散策/4 散歩道/3 立ち寄る/3 寄り道/3 回遊/5 回遊性/4 回遊路/1 回遊式ショッピング通路/1 回遊式庭園/1 回遊式の公園/1 回遊動線/1 ネットワーク/1 経路/2 経路/1 周遊路/1	
	16	39 JR大崎駅から続く「大崎ニューシティ」の屋上広場とその下に広がる商業施設は、歩行者が散策できる空間として、先進的であった。(no. 77)
[活動]	アクティビティ/11 活動/3 人の動き/1 人びとの動き/1 動きまわる/1 動きまわる場/1 走りまわる/1 行為/1 遊び場所/2 遊び場/1 遊び/1 遊ぶ/1 練習場/1 待ち合わせ/1 待合せ/1 待合い/1 行き交う/1	
	17	30 サンクンガーデンは、地下1階に位置しているが城内でもっともアクティビティの高い外部のロビー空間である。(no. 35)
[流れ]	人の流れをつくる/2 流れが発生/1 人の流れの誘引/1 人びとを誘い込む/1 流れが集まるところ/1 人の流れの結節点/1 流れのバランスを整える/1 交差点/1 人の動きの交差する場所/1 人の動きを誘う/1 人びとを導く/1 人を導く/1 人の導入/1 動線の絆/1 人の動線の迷路化/1 たまり/1 溜り/1 淀み/4 よどみ/1 溜まり場/2	
	22	25 樹木型の構造によって支えられた空中庭園は各施設のロビーと同じレベルで浮かび、これらすべてを空中ブリッジでむすぶことによって回遊性を都市的な規模へと拡大し、市街地から信濃川のやすらぎ堤までの人の流れをつくり出す。(no. 71)
[出会い]	集い/5 集う/4 つどい/2 集まり/2 あつまり/1 集合/1 出会い/3 出会う/1	
	8	19 人・モノ・情報が出会い化学反応を起こし、劇場都市にダイナミズムが生まれる。(no. 61)
[交流]	交流/6 交感/1 交友/1 交歓/1 親睦/1 触れ合い/2 ふれあい/1 語り合う/2 視覚交流/1 視線が交差し合う/1 コミュニケーション/3 コミュニケイト-1 コミュニティ/5	
	13	26 この都市的な広場は訪れる人びとの触れ合いや交流の場となり、新しい東京のシンボルとなって行くであろう。(no. 51)
[賑わい]	賑わい/10 にぎわい/1 活気/2 活性化/1	
	4	14 「大階段」には、いろいろな賑わいを誘うという意味がある。(no. 66)
[イベント]	イベント/7 イベント広場/3 イベントプラザ/2 イベントスペース/1 イベント空間/1 イベントの場/1 催し/2 催し物/2 行事/1 展示/7 エキシビジョン/1 パフォーマンス/4 コンサート/3 映画会/1 集会/1 人形劇/1 ファッションショー/1 レクリエーション/1 お話会/1 式典/1 制作/1 野外クッキング/1 食事会/1 日光浴/1 スポーツ/1 音楽祭/1 演劇祭/1 夜店/1 金魚すくい/1 盆踊り/1 お祭りの空間/1	
	30	53 導入部分のプラザは駅前広場に大きく開かれていて、さくろ坂やプリンス側への通抜けを強く意識しており、ここはシーズン毎のイベントやワゴンサービスなどに利用されることを予定している。(no. 31)
[劇場]	劇場/3 劇場都市/2 都市劇場/1 海の劇場/1 屋外劇場/1 屋外劇場化/1 URBAN THEATER/1 都市の劇的空間/1 祝祭/3 演劇的空間/1 非日常性/1 非日常の空間/1 舞台/5 大舞台/1 野外舞台/1 ステージ/2 野外ステージ/1 屋外ステージ/1 演者/2 観客/1 観客席/1 客席/1 主人公/1 精神的な昂り/1 LIFE CELEBRATION/1 心の高揚/1 見る見られる/1	
	27	39 ガレリアは行き交う大勢の人びとの交感の場でもあって、その意味で、ここも都市の劇場にほかならない。居合わせる人びとのための大舞台だ。(no. 64)
[イメージ]	ゴジラ体/1 都市の居間/1 人間のための広場/1 アゴラ船場/1 都市公園/1 躍動的な広場/1 ヒューマンなデザインの広場/1 有機的な広場/1 イタリアの広場/1 買いもの広場/1 街のアルコーブ/1 街のポケット/1	
	26	26 ギリシャのアゴラ/1 都市のへそ/1 都市の顔としての表情/1 都市の楽しいストリート/1 ロビー空間/1 都市の中のアルコーブ/1 野原/1 都市性の高い広場/1 アゴラ/1 原っぱ/1 人びとのための空間/1 大広間/1 ヴォイド/1 挿入された絵画/1
[イメージ]	都市の中の公共建築がどうあるべきかという課題の中で、誰もが立ち寄る境界線のあいまいな場所づくりを考えていた初期の段階から、初源的な野原のようなイメージがあった。(no. 44)	
	26	26
凡例		
[カテゴリー] 設計コンセプトから抽出されたキーワード/その抽出総回数		
代表的キーワードの抽出事例 ()内は事例no.		
カテゴリー別キーワード抽出総回数		
カテゴリー毎のキーワード種類数		

		人間・環境関係														建物用途	空間構成			
		人間・環境関係															空間構成			
No.	掲載年月	事例名	人間・環境関係														配置構成	平面構成	断面構成	
			安全・防災	健康・福祉	教育・研究	文化・芸術	生活・娯楽	交通・物流	環境・緑地	防災・避難	防災・避難	防災・避難	防災・避難	防災・避難	防災・避難					防災・避難
1	197107	金沢区役所庁舎																		
2	197107	金沢区役所庁舎																		
3	197301	千代田区役所庁舎 セルシー																		
4	04	大塚大塚ビルディング																		
5	04	大塚大塚ビルディング																		
6	197406	大塚大塚ビルディング																		
7	197503	大塚大塚ビルディング																		
8	07	目黒区役所庁舎																		
9	197705	大塚大塚ビルディング																		
10	197811	甲斐アレイ																		
11	197901	ハナモリ・モビル																		
小計11			2	2	1	3	3	2	3	4	1	1	2		5					
12	198005	STEP																		
13	10	横浜市中区役所																		
14	12	住友ビルディング																		
15	198103	伊豆山温泉ホテル																		
16	06	横浜市中区役所																		
17	06	花の北モール																		
18	09	横浜市中区役所																		
19	10	横浜市中区役所																		
20	10	横浜市中区役所																		
21	10	横浜市中区役所																		
22	198201	名鉄市庁舎																		
23	06	サンプレイス (豊川相互銀行南新町支店)																		
24	11	甲府こもん																		
25	198303	横浜市中区役所																		
26	07	横浜市中区役所																		
27	07	横浜市中区役所																		
28	11	つくばセンタービル																		
29	198403	つくばセンタービル																		
30	198403	つくばセンタービル																		
31	06	つくばセンタービル																		
32	06	つくばセンタービル																		
33	09	つくばセンタービル																		
34	198704	ヤマトインターナショナル																		
35	05	横浜市中区役所																		
36	12	日比谷センター																		
37	198807	多摩市立芸術文化施設																		
38	198805	日比谷センター																		
39	07	日比谷センター																		
40	10	日比谷センター																		
41	198905	日比谷センター																		
42	08	日比谷センター																		
43	09	日比谷センター																		
44	09	日比谷センター																		
45	11	日比谷センター																		
46	かながわ	日比谷センター																		
小計35			8	6	6	7	8	9	3	2	6	12	8		9					
47	199003	日比谷センター																		
48	06	日比谷センター																		
49	07	日比谷センター																		
50	07	日比谷センター																		
51	199105	日比谷センター																		
52	11	日比谷センター																		
53	199207	日比谷センター																		
54	199402	日比谷センター																		
55	09	日比谷センター																		
56	11	日比谷センター																		
57	199501	日比谷センター																		
58	06	日比谷センター																		
59	03	日比谷センター																		
60	05	日比谷センター																		
61	199606	日比谷センター																		
62	08	日比谷センター																		
63	10	日比谷センター																		
64	199704	日比谷センター																		
65	06	日比谷センター																		
66	09	日比谷センター																		
67	199801	日比谷センター																		
68	09	日比谷センター																		
69	小田急	日比谷センター																		
70	小倉	日比谷センター																		
71	199901	日比谷センター																		
72	02	日比谷センター																		
73	02	日比谷センター																		
74	02	日比谷センター																		
75	04	日比谷センター																		
76	04	日比谷センター																		
77	05	日比谷センター																		
78	05	日比谷センター																		
79	06	日比谷センター																		
80	06	日比谷センター																		
81	08	日比谷センター																		
82	08	日比谷センター																		
83	08	日比谷センター																		
84	09	日比谷センター																		
85	10	日比谷センター																		
小計39			4	4	8	10	9	6	9	4	7	11		3						
86	200001	日比谷センター																		
87	02	日比谷センター																		
88	03	日比谷センター																		
89	05	日比谷センター																		
90	05	日比谷センター																		
91	06	日比谷センター																		
92	06	日比谷センター																		
93	06	日比谷センター																		
94	06	日比谷センター																		
95	07	日比谷センター																		
96	09	日比谷センター																		
97	200101	日比谷センター																		
98	04	日比谷センター																		
99	04	日比谷センター

図4 人間-環境関係 キーワード抽出回数

図5 人間-環境関係 年代別抽出頻度

3. 設計コンセプトにみる人間-環境関係の分類

設計コンセプトの中から抽出したキーワードをKJ法的⁽¹⁰⁾に分類した。具体的には、【人間】の行為・状態に関する項目として、利用者のリラックスした状態を意図した【安らぎ】、建物に気軽に立ち寄ることを意図した【通り抜け】、敷地内で動きまわる行為を意図した、【散策・回遊】、敷地外をも含んだ人の流れをつくり出そうとする【流れ】、他者と新しい関係を持つことを意図した【出会い】、他者との関係を持つことを意図した【交流】、また【場所】に関する項目として、場所で利用者が賑わう様子を意図した【賑わい】、場所での催し物やイベントを表す【イベント】、場所が劇場のイメージとなるよう意図した【劇場】、【表現】に関する項目として、場所のイメージを一言で表現した【イメージ】の計12個に分類することができた(表1)。これらカテゴリーのうち、最も多く抽出されたのは、【イベント】(53回)、ついで【劇場】[散策・回遊](39回)、【活動】(30回)となった。さらに、同一カテゴリー内で類似したキーワードをまとめてみると(図4)、展示など各種イベント利用を意図したもの【J3】が最も多く(27回)、ついで通り抜ける【C1】(22回)、憩い【B1】(18回)となっている。また、同一表現で最も多く抽出されたキーワードは、【憩い】(12回)、ついで「アクティビティ」(11回)、「賑わい」(10回)となっており、この3つのキーワードがよく用いられる単語であるといえる。

4. 設計コンセプトにみる人間-環境関係の分析

4.1 抽出頻度

全112事例中、最も抽出頻度が多いのは、【イベント】で、29事例、ついで、【散策・回遊】28事例で共に1/4以上の事例で抽出された。以下、【劇場】で26事例、【活動】24事例、【イメージ】21事例、【交流】20事例、【通り抜け】19事例、【出会い】18事例、【安らぎ】17事例、【憩い】15事例、【賑わい】13事例となっている(図5)。

4.2 時代的変遷 (以下()内数字は事例数を示す)

各事例においてどの分類用語が抽出されたかを年代毎に分析した結果(図3)、以下のような傾向を読み取ることができる(図5、表2)。

- 1970年代(11)は、強いといえば【イメージ】(5)が多い、
 - 1980年代(35)は、【イベント】(12)、【流れ】[イメージ](9)、【安らぎ】[活動][劇場](8)、
 - 1990年代(39)は、【劇場】(11)、【散策・回遊】(10)、【活動】[交流](9)、【通り抜け】(8)、
 - 2000年以降(27)は、【イベント】(9)、【散策・回遊】(8)、
- さらに、各キーワード毎に見ていくと、
- 【安らぎ】は1980年代に多い(8/17)、
 - 【散策・回遊】は1990年代以降に多い(18/28)、
 - 【活動】[劇場]は1980年代90年代に多い(17/24)(19/26)、
 - 【流れ】は1980年代に多い(9/19)、
 - 【交流】は1990年代に多い(9/20)、

表2 人間-環境関係 年代別傾向

カテゴリ	1971-79	1980-89	1990-99	2000-02
安らぎ	2	6.9	8	9.5
憩い	2	6.9	6	7.1
通り抜け	1	3.4	6	7.1
散策・回遊	3	10.3	7	8.3
活動	3	10.3	8	9.5
流れ	2	6.9	9	10.7
出会い	3	10.3	3	3.6
交流	4	13.8	2	2.4
賑わい	1	3.4	6	7.1
イベント	1	3.4	12	14.3
劇場	2	6.9	8	9.5
イメージ	5	17.2	9	10.7
計	29	100.0	84	100.0

注 ハッチは各年代で10%以上該当するもの、左欄数字は事例数、右欄は百分率を示す。

図6 建物用途別人間-環境関係

図7 人間-環境関係と空間構成

x) [イベント]は1980年代と2000年以降に多い(12/29) (9/29),

xi) [イメージ]は1970年代80年代に多い(14/21)。

といった傾向を読み取ることができる。

以上のことから設計コンセプトにみる人間-環境関係の時代的変遷を大まかにまとめると、1970年代にはさまざまな議論がなされ、1980年代以降、[イベント][劇場]といった都市に賑わいをもたらそうとする流れと、[通り抜け][散策・回遊][流れ]といった人びとのアクティビティを操作しようとする流れにわかれ、さらに1990年代にはいると、それらに加え、[交流]という他者も含めた関係を築いてもらおうとする流れが生まれたといえる。

4.3 建物用途

対象事例をパブリックオープンスペースに付随する建物用途別に分類すると、(図6)のようになる。建物用途毎にカテゴリーの傾向をみると、1. 事務所(38)では、他用途に比べ偏った傾向はみられないが、[活動](12)、[交流](10)などが比較的多くみられる。2. 商業施設(29)は、[流れ](9)、[散策・回遊](8)、[イベント][劇場](7)が多くみられる。このことは敷地内に人を導き、動きまわることにより、施設全体を活気あるものにし、集客力を向上させたいという事業主側の意図が反映されていると思われる。3. 劇場等(20)は、12事例が[劇場]のカテゴリーに該当し、建物用途に関するキーワードが多く用いられている。4. 美術館等(28)も3. 劇場等同様[劇場](10)が多くみられるが、[交流](8)、[散策・回遊][出会い][イベント](7)なども多くみられる。5. 交流施設(21)は、[散策・回遊](7)、[活動][出会い](6)が比較的多い。

以上をまとめると、パブリックオープンスペースでの人間の行為、利用と建物用途の関連が希薄な、1. 事務所、4. 美術館等、5. 交流施設では、さまざまな設計コンセプトが用いられる傾向にあり、関連が強い、2. 商業施設、3. 劇場等は、ある特定の限られた設計コンセプトが用いられる傾向にある。

4.4 空間構成

次に、対象事例の空間構成を、配置構成、平面構成、断面構成についてそれぞれ分類し、カテゴリー毎に傾向をみると、周辺環境や建物規模による影響も考えられるが、いくつかの傾向がみられた(図7)。
[憩い]については、キーワードの種類はあまり多様ではないが、空間構成のバリエーションは比較的多い。

しかし、全体的に[通り抜け][散策・回遊][流れ]以外は、人間-環境関係に対応した空間構成はあまりみられず、[交流][賑わい]などについては目標とした人間-環境関係を実現する手法は乏しいといえる。

5. まとめ

新建築に掲載された事例というある限られた範囲内ではあるが、パブリックオープンスペースの設計時のコンセプトの中に抽出された人間-環境関係にいくつかの傾向を読み取ることができた。

それらを設計者と利用者の関係からまとめると、[安らぎ][憩い]といった利用する人びと自身の心理、感情を表す行為を意図したもの、[通り抜け][散策・回遊][活動][流れ]といった設計者がその場を利用する人びとに対してこうしてほしいというような意図を含んだ人間の行為を制御しようとするもの、[出会い][交流]といった設計者がその場を利用する人びとを積極的に関係づけようとした擬似的なもの、[賑わい][イベント][劇場]といった利用する人びとの日常とは異なったその場所の状態を意図したもの、[イメージ]のように設計者固有の言語で場所の状態を表現しようとするものの5種類に分類できる(図8)。

それらの時代的変遷は、1970年代は[散策・回遊][活動][出会い][交流][イメージ]などで比較的多くのキーワードが用いられ、1980年代以降、[イベント][劇場]や[散策・回遊][流れ]といった言語が用いられるようになる。さらに90年代以降、それらに[通り抜け][出会い][交流]

図8 設計者と利用者の関係からみた人間-環境関係

図9 人間-環境関係の時代的変遷

図10 人間-環境関係の意味内容分布

参考文献

- 1) 新建築社編「新建築」1971年1月号-2002年12月号
- 2) 鈴木毅「人の居方からの環境デザイン」建築技術 1993.07, 09, 1994.02, 04, 06, 08, 10, 12, 1995.02, 04, 06, 08, 12
- 3) W.H. ホワイト「都市という劇場」柿本輝夫訳 日本経済新聞社 1994 (原著1988)
- 4) J. ゲール「屋外空間の生活とデザイン」北原理雄訳 鹿島出版会 1990 (原著1987)
- 5) C.C. マーカス・C. フランシス「人間のための屋外環境デザイン」湯川利和、湯川聡子共訳 鹿島出版会 1990 (原著1977)

が加わり、2000年以後もこの傾向は続いているように思われる(図9)。

こうした流れの中で、全体として[安らぎ][憩い]以外は人間の積極的な行動に関わるものが多く、人びとを関係づけ、擬似的なコミュニティを発生させるような、その場で行われる行為や関係を『規定』『誘発』することを意図したものが多く、逆に「ひとり」でも「都市」を感じられることを意図したコンセプト、例えば、「孤独性を楽しむ」⁽¹¹⁾というような対象を集団としない考え方や「ひとりで何もせずにただ居られる」といった曖昧な行為⁽¹²⁾を意図したものなどは、今回のデータからはあまり得られなかった(図10)。このことは、これまで計画されてきたパブリックオープンスペースの目標像が、社会の中の集団を相手の明確な行為を目標として計画されてきたと読み取ることも可能である。

今後、都市の中でさまざまな人びとが「ただ居られる」ようなパブリックオープンスペースのためには、知覚・認知などもっと低レベルの社会関係⁽¹³⁾のためのコンセプトも必要ではないだろうか。さらに、そのような低レベルの社会関係をつくりだすための建築ポキャプラーを確立していかなければならない⁽¹⁴⁾。本研究での成果をもとに今後、いくつかの代表的な事例について実態調査を行い、パブリックオープンスペースに対する新たな知見を得たい。

注釈

- (1) 鈴木毅は、文献2)の中で「居方=ある場所に人が居るときの様子、そのときに周囲の環境や他者との関係の総称」という概念を提唱し、「居合わせる」「行き交う」「たたずむ」など都市のオープンスペースにおいて人が居ることで都市が魅力的にみえる場面について述べている。
- (2) 芦原義信:「外部空間の構成」彰国社 1962, 「外部空間の設計」彰国社 1975
- (3) 植田洋:「都市的オープンスペースの空間意識と物理的構成との相関に関する研究」日本建築学会計画系論文報告集 第451号 145-154頁 1993.9
- (4) 近江隆、北原啓司:「Small-Urban-Space内外の行為からみたSUS領域の形成」日本建築学会計画系論文報告集 第433号 119-127頁 1992.3
- (5) 雑誌に掲載された文章から、住宅、都市などに対する論考を対象に、建築家の思考を分類し、建築家の言語的活動の中にある建築的思考の枠組みを捉え、それらの歴史的傾向、意味内容を明らかにしており、本研究では、文献7)の他、奥山信一、斉藤千尋、坂本一成「戦後『新建築』誌にみられた建築家の都市観 建築家の住宅論・都市論に関する研究」日本建築学会計画系論文報告集第444号、p.49-59, 1993.2、奥山信一、持田英明、坂本一成「戦後『新建築』誌にみられた建築家の創作の主題 建築家の創作論に関する研究」日本建築学会計画系論文報告集第451号、p.77-86, 1993.12、などの手法を参照した。
- (6) 対象誌を「新建築」誌としたことから、実在する全てのパブリックオープンスペースを対象として分析を行った訳ではなく、また、掲載記事というごく限られた文章からのみの引用となり、設計者が意図した設計コンセプト全てを扱った分析ではないではないが、本研究では、メディアを通して世間に発表したということ自体を肯定的に捉えた。
- (7) 総合設計制度が施行されたのが1971年であるため、対象を1971年以後とした。
- (8) 本研究において、住宅、集合住宅、寮、山荘、別荘、学校(付属施設含む)、病院、及び博覧会等の一時的なもの、プロジェクト、海外事例は、その用途及び場所の違いから除外した。
- (9) 当然、掲載された事例の取りあげ方により記事の大きさも異なるが、本研究では、事例に対して評価する事を目的としておらず、あくまでもその掲載記事中の設計者の意図を探るものであるため、記事の大きさの影響は考慮しないこととした。
- (10) 川喜田二郎:「発想法」1967、「続・発想法」1970(共に中公新書)を参照した。
- (11) 横文彦は、時と風景-東京へのオマージュ(新建築1992.6月号226-229頁)の中で、「都市のパブリックスペースは群衆やコミュニティのためにだけ、その存在理由があるわけではない。その本質のひとつは人びとに都市における孤独性の享受を確証する場でもある。このようにさまざまなレベルにおけるパブリック的な空間とその意味性が重層的に現れるとき、われわれは都市空間の豊かさを獲得し得るのである。」としている。
- (12) 図10の縦軸「曖昧な行為」-明確な行為、横軸「個人-集団」は文献2)1994.2, 157頁の図3をもとに作成した。
- (13) 例えば、J. ゲールがいう「他の段階のふれあいが生まれる出発点の可能性」としての「低い密度のふれあい」(文献4)22-26頁)や、鈴木毅が「居合わせる」(文献2)1994.06 210-213頁等)と表現しているような、他者や周囲との新しい関係のきっかけを生み出そうとするコンセプトが必要であると思われる。
- (14) 勿論、考えている設計者がいないというわけではなく、本研究では、対象を『新建築』誌に限定したため、その誌面には掲載されていなかっただけであると思われる。

(2003年10月10日原稿受理, 2003年12月22日採用決定)